

「藩府沙汰書（伊藤俊輔に角力隊管轄仰付の事）」（毛利家文庫32部寄12〈23の17〉）



幕末の諸隊力士隊と山分勝五郎（3）

～力士隊、戦場へ～

禁門の変、高杉晋作の功山寺決起、大田・絵堂の戦い（元治の内戦）、幕長戦争（四境戦争）。力士隊（角力隊）は長州藩をめぐる幕末の主要な戦闘に参加し、前線で戦いました。死傷者も出ました。

《禁門の変と力士隊》

文久3年(1863)8月18日政変で京都での政治勢力を失った長州藩は、復権を目指し、元治元年(1864)6月京都へ軍勢を送ります。力士隊は来島又兵衛率いる遊撃軍の一隊として進軍、京都南西の山崎を通り嵯峨天龍寺に着陣しました。総勢54名。

7月19日ついに長州藩は軍を動かし、会津・薩摩・桑名藩兵らと激しい戦闘となりました。禁門の変です。長州藩は各方面で敗れ、来島又兵衛、久坂玄瑞らが戦死、総退却となります。

力士隊も戦闘に参加、阿武湯東三郎

と玉の岩卯吉が戦死しました。東三郎は先大津宰判給庄屋清兵衛の息子、卯吉は小郡宰判秋穂上ヶ田村政右衛門の息子、いずれも百姓出身の若者です。体格が良く、隊に加えられたのでしょうか。（毛利家文庫64京師変動一件4「京都変動以来控」）。

《功山寺決起と力士隊》

禁門の変後、藩内では保守派が勢力をもち、急進派への弾圧、諸隊解散命令、三家老の切腹など、幕府恭順路線を押し進めます。そうした中、元治元年12月15日、保守派打倒を主張する高杉晋作が長府功山寺で挙兵、下関の新地会所を襲撃しました。高杉の挙兵時、功山寺には伊藤俊輔（博文）率いる力士隊があり、高杉の挙兵に加わりました。これに先立つ9月29日、伊藤は力士隊（史料上では「角力隊」と表記）の「管轄」となっており、当時長府にいたのです（上写真）。



「四境戦争一事」（毛利家文庫66四境戦争一件38）

毛利家文庫「四境戦争一事」は、幕長戦争時、四境の各方面部隊から山口の藩庁政事堂への報告、政事堂から各方面への指令などが収録された記録です。幕長戦争に関する長州藩側のもっとも基本となる史料です。全5冊。小瀬川口での勇力隊の活躍と人的損害に関する記述もあります。『山口県史料編 幕末維新4』に翻刻されています。

『維新6』245、304～305頁、『奇兵隊日誌』等）。力士隊は、高杉の功山寺決起という歴史的転換点に立ち会い、また、若き日の伊藤博文とも結びつきをもった隊でした。

《保守派による引き抜き》

ところが力士隊（角力隊）は、そののち保守派の児玉久吉郎（大組児玉作兵衛弟）に説得され、勝五郎を含むほとんどの隊士が萩へ戻ってしまいます。12月22日、この功績により児玉は、「誠にもって策略の次第神妙」と銀子5枚を萩政府から下賜されました（『維新6』309頁）。力士隊を保守派側に寝返らせた児玉は大手柄！ということでしょう。

《大田絵堂の戦いと力士隊》

元治2年1月、美祢郡大田・絵堂周辺で萩政府軍と諸隊が激突、元治の内戦が始まります。10日、力士隊（角力隊）は萩野隊とともに粟屋帯刀率いる萩政府軍の先陣を務め、絵堂・長登近辺での戦闘で放火作戦を担い、諸隊側の武器を奪うなどの戦功をあげました。「萩野隊・力士隊此両勢殊二相働候」（毛利家文庫71藩臣日記6「児玉惣兵衛日記」）とかなりの活躍だったようです。

一方で甚大な被害も。若稻荷勝蔵、岩井山多助が戦死、錦川長五郎ら4名が負傷しました。若稻荷勝蔵と錦川長五郎は隊結成当初のメンバー。若稻荷勝蔵は敵2名を倒しながらの戦死でした。初期メンバーの戦死・負傷は、隊士に大きな衝撃を与えたでしょう。

《勝五郎、士分に取り立てられる》

大田・絵堂の戦い後の1月26日、萩に戻った勝五郎は、萩政府から「其身一代御供徒士為御雇」に取立てら

れ、二人扶持2石4斗を与えられます（『維新6』356頁）。最下級クラスの藩士身分ですが、勝五郎にとってはこの上ない昇進、栄誉です。一介の相撲取から最下級ながらも長州藩士へ。勝五郎の絶頂期といってもよいでしょう。しかし、それはほんの束の間でした。

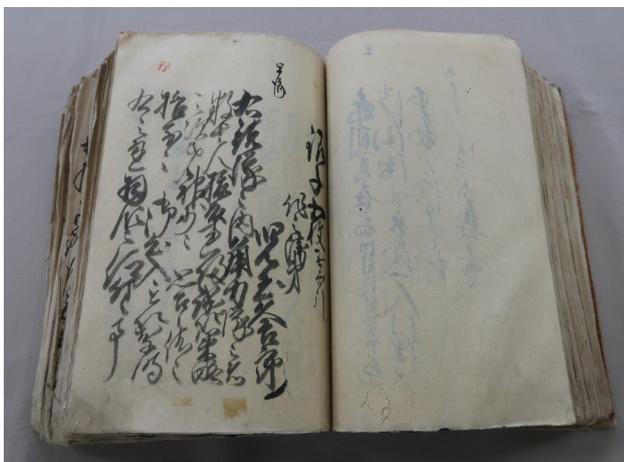
《内戦の終結と勝五郎》

内戦は藩主敬親主導で終結に向かい、棕梨藤太ら保守派の一掃（1月28日）、抗幕政権成立（3月23日）と政局は大きく転換します（三宅紹宣『幕長戦争』）。そうしたなか、保守派に付いた勝五郎らは肅清対象とされます。『防長回天史』によれば、勝五郎は剃髪して吉敷山中に逃れ、許しを請うたといえます。

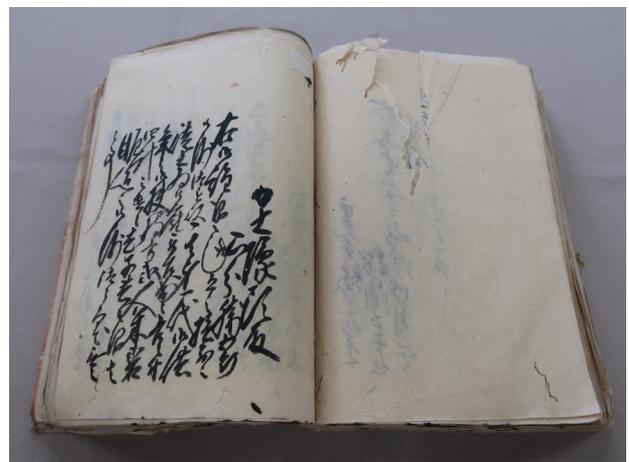
政権内では厳罰意見もあったものの結局許されました。今後の幕府との戦争を考えると、戦力としての力士隊、隊を統率する勝五郎を失うのは得策ではないと判断したのでしょうか。慶応元年（1865）3月4日、遠近付士粟飯原（あわいばら）右衛門兵衛に「力士隊世話」が命じられます。また、勝五郎も閏5月19日に再び「角力隊頭取役」に任じられています（『維新6』368・439頁）。

《幕長戦争と隊士たち》

慶応2年6月7日幕長戦争が始まります。勇力隊は芸州口の戦いに派遣されますが、勝五郎ら力士隊（角力隊）の隊士はそこに編入されたようです。勇力隊士は6月25日小瀬川口での戦いで先鋒を務め、道をふさぐ松木（バリケード）を除去する働きをみせています。力自慢の面目躍如です。しかし、「敵ライフルなどを以て必死に防」ぐという激戦の中、隊士浅の川が銃撃を2か所受け負傷、隊士宝島は銃撃により即死しています（『維新4』486～489頁）。



藩府沙汰書（児玉久吉郎賞美の事）
元治元年12月12日（32部寄12〈23の23〉）



藩府沙汰書（山分勝五郎一代御供徒士御雇の事）
慶応元年1月26日（32部寄13〈19の2〉）